**兵庫県南部地震の慰霊法要**

# 梅山座主を導師に

**天台宗**

**延暦寺・宗務庁・教区対策本部主催で**

## 16日は神戸、17日は延暦寺で法要を厳修

兵庫県南部地震から一年、天台宗では、十六日に兵庫大仏で有名な神戸市兵庫区北逆瀬川町一ノ三九の能福寺（雲井世雄住職）で、兵庫教区災害対策部、天台宗務庁、総本山比叡山延暦寺の主催により、梅山圓了天台座主を導師に、遺族、檀信徒ら三百人近くが参列し､「阪神淡路大震災物故者一周忌慰霊大法要」を営んだ。また、翌十七の震災の日は、総本山延暦寺の阿弥陀堂で、梅山座主の導師により、一周忌法要が勤められ、犠牲者の冥福を祈り、一日も早い復興を念じた。

十六日午前十一時から、能福寺境内の冬空にそびえる大仏前の高台で、梅山座主を導師に、杉谷義純宗務総長ら宗務庁からと、小林隆彰延暦寺執行ら総本山から、そして上中善信兵庫教区宗務所長ら教区代表からの出仕による三十二供の式衆により、しめやかな中にも荘厳に営まれ、読経の声が神戸の空に響いた。境内の紅梅も咲き初めていた。

式衆は、書院から境外を回って、総門から道場へ向かった。両脇に供花が飾られた六十段の石段を昇段、大仏尊前の席について、常行三昧の法儀を勤めた。

七仏通戒偈に続いて、梅山座主により法則が読み上げられた。

「今一周の斎忌を迎え、霊筵を設けて有縁の浄侶を紹し、虔て葉典を誦して大勢菩薩の威力をたのんで、究竟の寂光を祈る。功徳莫大、利益無量なり。方に今、梅華開発して春色を増し、志願成就して諸霊悉く菩提を成せんことを。乃至法界平等利益」

阿弥陀経に続いて自我偈が上げられるうちに、焼香が行なわれた。兵庫教区住職代表を初め、藤光賢宗議会議長、西郊良光同副議長、木村俊文道興会会長、東海・近畿・中国・九州各教区代表の宗務所長、遺族、檀信徒ら二百人余の焼香の列が続いた。中には幼稚園児、幼児を抱いた婦人などの姿もみられた。

読経の最後に散華が舞った。塔婆廻向に移り、念仏が繰り返し唱えられ、廻向文で法要を終えた。

続いて杉谷宗務総長が挨拶に立った

「地震で命を失われた方々の“み霊”がお浄土で安らかに過ごしていただき、その方々の励ましをいただくようでなければ、真の平和が来ないと思う。亡くなられた方々のお気持が痛まなくなるまで、私たちはご廻向をさせていただかなくてはならない。

焼香中お上げした自我偈の中に『質直意柔軟』という言葉があるが、人間が人間らしく心が平に温かくなければならないという教えである。

震災によって皆様のお心は一瞬に氷のように固く冷たくなり、何かに少しぶつかっても痛み感じる、というのがこの一年であったと思う。

一日も早く皆様が立ち上がれるよう、天台宗も引き続き全国に呼びかけて参りたい。

物質的な復興には時間がかかるかもしれない。まず心の立ち上がりが全てを解決する手だてとなるものと確信している。手をとりあい、一歩々々前向きに歩み出されることを願っている」

小林執行が挨拶に立ち、

「関係各位のご来席をいただき、震災一周忌の法要を勤めさせていただいたこと、そして、天台座主直々にお出ましいただき、荘厳に勤められましたこと、ありがたくお礼申し上げる。
法要中、亡くなった皆様が読経に寄られて、並んで手を合わせておられるような気がした。
思いいたすと、一年前、想像を絶する大震災に見舞われ、六千三百人という尊い犠牲を強いられた。また、多くの財産を失われるほどの犠牲者も出た。つい先日のようだが、被災者の皆様にとっては本当に長く辛い一年であったろうと拝察する。一日も早い復興を願っています」
と語った。
また、同寺境内では、兵庫教区仏青や仏婦らが中心となってボランティアによる「ぜんざい」三百食の炊き出しも行われた。
境内には、大破した本堂に未だにシートがかかったままで、台座から転がり落ちた一メートル余の石仏がそのままであったりと、当時の被害の甚大さを表わしていた。
しかし能福寺は震災を受けながらも、有志僧侶やボランティア団体による炊き出し、物資の引き渡しなど救援活動の拠点として、震災当時から活動を続けており、地域でも重要な役割を果たしてきた。

---

## 神戸復興の象徴「兵庫大仏」

地震にも倒れず残った兵庫大仏は、この一年間、神戸の復興の象徴として、地域の人々の心を励ましてきた。
旧兵庫大仏は、明治年間に神戸の豪商の発願で建立された。当時同寺周辺は神戸の繁華街の中心で、縁日には露店が並び、芝居や演芸の掛け小屋も立って賑わった。喜劇の渋谷天外や落語の林屋捨丸などもこの小屋からスタートしたといわれている。
現在の兵庫大仏は、戦時中の昭和十九年に供出された旧大仏に代わって、平成三年五月に再建立されたばかりのもの。身丈が十一メートル、台座を含めた総高は十八メートル、重さ六十トン。総高十八メートルのため建立時に市の厳しい検査基準を受けて、震度８に耐える十二メートルの杭打ちという厳重な基礎工事を行なったことが幸いして、大震災にもビクともしなかった。
◇
翌日の十七日、午前十一時から、総本山延暦寺阿弥陀堂でも犠牲者一周忌法要が奉修された。
本尊前に花が飾られ、壇上に「阪神大震災犠牲者霊位」と記された一メートル近い位牌が祀られた。
梅山座主が導師を勤め、杉谷宗務総長、小林執行を初めとする一宗、総本山両内局員と、一山式衆により、常行三昧の法儀が修された。
この法要は自主的な内輪によるもので、来山の参拝者も復興を願って手を合わせていた。

**冬空の兵庫大仏前で営まれた慰霊法要［写真は省略］**

**梅山座主導師により延暦寺で修された慰霊法要［写真は省略］**

---

(c) 1996中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)